

# 教 育 研 究 業 績 書

令和 5年 4月 1日

氏 名 勝 本 泰 弘

研 究 分 野	研究内容のキーワード	
数学、数学教育、情報教育	グラフ理論、離散数学、情報技術の歴史	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 新しい教育内容・方法の実践		
① グラフ理論の教材化	平成3年 ～平成11年	点と線に事物や関係に対応させ簡単な線面に表し、その線画の特徴を考察し応用することは、日常生活における数学の有用性を子どもたちに感じ取らせ数学への関心興味、数学の活用を誘う上で効果的である。その教材開発と授業案（ゴミ収集車の効率的なコース決め問題や巡回セールスマン問題等）の作成を行った。日本数学教育学会でH7年、H8年、近畿数学教育学会でH9年にその成果を発表。
② コンピュータを活用しての数学・理科授業実践	平成3年 ～平成11年	温度、圧力、光センサー等とパソコンを活用した実験授業を数学や理科の授業で実施。平成11年頃NHK和歌山TVからも取材撮影されTVで紹介された。
2 作成した教科書、教材		
① 日常生活の中の数学活用場面の教材データベースの作成	平成3年 ～平成11年	日常生活の中で活用されている、あるいは、潜む数学について、その有用性や活用の面白さ、すばらしさを子どもたちに伝える事例の収集をし、データベースを作成した。
② 中高生のためのグラフ理論の作成とインターネット上での公開	平成8年 ～現在	中高生向けのグラフ理論入門ノートの作成。その一部をインターネット上でも公開している。
③ 管理職やその候補者等に対し、教育制度や学習指導要領の変遷、学校運営や危機管理に役立つ教育法規等のテキストを作成し講義を実施	平成19年 ～平成22年	校長・教頭研修や管理職検査を受検する者を対象にした研修でのテキスト（教育制度や学習指導要領の変遷、学校運営や危機管理に役立つ教育法規等）を作成し、そのテキストを毎年改定しながら4年間講義をした。
④ 体罰防止のための研修資料「子どもたちの笑顔のために」を作成	平成23年	体罰事案の発生防止対策の1つとして事例集やチェックリストを作成し、学校現場を指導した。

⑤ 不祥事防止マニュアルの作成	平成 24 年	体罰防止だけでなく、個人情報管理やサービス規定の順守、ハラスメントの防止等狙った総合的な事例集を兼ねた研修資料を作成し、学校現場を指導した。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		記入不能
4 実務の経験を有する者についての特記事項 ① 教職員人事管理データベースの和歌山市初の構築  ② 中学校数学、理科教科書調査まとめ作成	平成 13 年～平成 29 年  平成 13 年～令和元年	平成 13 年に教職員の人事管理、異動事務を正確かつ迅速行うための、データベースの構築を行った。Access と Excel を活用してのシステムを作り、その後改良を重ね、現在も和歌山市立教職員すべての人事管理をこのデータベース中心に行っている。  ある年は教科書調査員として、また、異なる年は教科書選定委員会事務局員として和歌山市立小中高等学校教科書選定に携わった。
5 その他 ① 平成 5 年度文部省情報指導者講座（中学校理科）県代表として受講  ② 平成 9 年度文部省情報指導者講座（中学校数学）県代表として受講	平成 5 年 5 月  平成 9 年 8 月	全国の理科分野での情報教育先駆者たちと研修を深め情報を交換した。  全国の数学分野での情報教育先駆者たちと研修を深め情報を交換した。
職 務 上 の 実 績 に 関 する 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 資格、免許 ① 教育学修士  ② 小学校教諭専修免許状  ③ 中学校教諭専修免許状（数学）	平成 3 年 3 月 23 日  平成 3 年 4 月 25 日  平成 3 年 4 月 25 日	兵庫教育大学大学院「修士論文：ハミルトングラフの研究」 オイラーグラフについては研究が進んでいるが、ハミルトングラフについては、4 色問題との関係、巡回セールスマン問題を含め、今後研究が必要であり、未解決問題も多くある。この分野のその時点での研究成果と問題点をまとめ、今後の研究の方向性を考察した。

④ 高等学校教諭 1 種免許状 (数学)	昭和 59 年 3 月 24 日	申請すれば専修免許状
2 特許等		特記事項なし
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
① 和歌山市教育情報ネットワーク「きいねっと」の立ち上げ	平成 9 年 ～平成 11 年	和歌山市教育委員会と市内の小・中・義務教育学校 (当時の中学校 18 校 1 分校・小学校 53 校 2 分校) をつなぐ和歌山市教育情報ネットワーク「きいねっと」の初の立ち上げに際し、教育研究所に協力し、特にインターフェース等の開発に中学校現場から尽力し、その構築を果たした。現在、児童・生徒用ポータルサイトと教職員用ポータルサイトがあり、教育データ管理システム、 <b>e-Learning</b> 、チームサイト、学習リンク集、教材掲示板等が提供されている。
② 市立幼稚園運営協議会の立ち上げと幼稚園の再編、こども園の新設計画の作成	平成 16 年 1 月～ 平成 26 年	市立幼稚園の再編、こども園への移行に向けて、市立幼稚園運営協議会を立ち上げ担当し、H23 年からは、担当課長として運営した。
③ 市立和歌山商業高校に普通科開設、市立和歌山高校への校名変更、市和商将来構想検討委員会の立ち上げ	平成 18 年	市和商将来構想検討委員会の立ち上げ、普通科開設、校名変更の作業を担当した。
④ 教育課題特別研修講師	平成 19 年 8 月～ 平成 26 年	管理職検査受検予定者に対する研修講師として講義した。特に教育制度や学習指導要領の変遷、学校運営や危機管理に役立つ教育法規等について毎年講義を行った。
⑤ 和歌山市学校評議員制度、学校評価制度の初の構築	平成 20 年 2 月	市内の全市立校に初の学校評議員制度、学校評価制度を担当リーダーとして構築し、学校向けマニュアル、評価委員向け説明書等を作成した。
⑥ 学校評価研修会の開催	平成 20 年 5 月	学校評価制度をうまく浸透させるため、和歌山市約 500 人の学校評価委員 (保護者や地域住民等) に向け、3 回に分けての研修会を実施し、その講師として説明をした。
⑦ 文部科学省主催学校評価研修会への参加 (於大阪)	平成 20 年 12 月 2 日～5 日	法改正により、学校評価が全国的に実施される状況になり、その効果的方法の研修と各府県市の取組状況の意見交換を代表として行った。
⑧ 藤戸台小学校新設に向けての取組	平成 20 年 ～平成 23 年 4 月	藤戸台小学校の新設に向けての、各種事務手続きと校名決定や校歌の作成依頼について担当副課長として取り組んだ。
⑨ 和歌山大学教育学部との連携協定の締結と協定事業の展開	平成 22 年 2 月 22 日～	和歌山大学教育学部と、学生ボランティアの派遣、教育実習の協力、教育研究指導の協力と助言等の連携について協定を結び実施。担当課長として計画立案し、市から大学への委託事業も創設して実施した。

⑩ 和歌山県初の義務教育学校（伏虎）の構築開校、	平成 23 年～平成 29 年 4 月	和歌山県初の伏虎義務教育学校の開設にあたり、その数年前から、学校適正規模検討委員会や地域住民への説明を繰り返し、設計、カリキュラムの構築に携わった。特に学校教育部長時代には、小中一貫のカリキュラムの作成、教室の種類や配置等ソフト面の責任者として携わった。
⑪ きぼうプロジェクトの企画と実施	平成 24 年 7 月 29 日～8 月 2 日 平成 25 年 8 月	東日本大震災の被害者である小学生を、和歌山にバスで招き、夏休みに 5 日間楽しい時を過ごしてもらおうプロジェクトを企画し実施した。2 年間実施する。
⑫ 教職員人事権の県から市への移譲についての意見を文科省報告	平成 26 年 6 月 27 日、9 月 16 日～17 日、10 月 24 日	校内人事配置決定の仕組み、教職員の人事権の県から市への移譲について、文部科学省の会議に招聘され、3 回にわたり意見を述べた。
⑬ 国体新体操運営責任者	平成 27 年 9 月 4 日～7 日	和歌山国体の新体操競技の運営責任者として準備、打ち合わせ会議、監督審判会議等に出席し、大会当日の運営に携わった。
⑭ 加太少年自然の家の青少年国際交流センターとしての建替計画の立案	平成 27 年～平成 28 年	加太少年自然の家の青少年国際交流センターとしての建替にあたり、その設計や地元住民への説明、運営形態の研究等に管轄部の部長（学校教育部長）として直接携わった。
⑮ 学校問題サポートチームの立ち上げ	平成 25 年 2 月～	学校現場で発生する事件、事故、児童生徒やその保護者との対応について、適切にサポートするシステムとして、弁護士、カウンセラー、警察や校長の OB 等をその構成員とする学校問題サポートチームを立ち上げて適切に活用を進めた。
4 その他		
① 全国都市立高等学校長会常務理事	平成 29 年 4 月～令和 2 年 3 月	
② 全国商業高等学校長会理事	平成 29 年 4 月～令和 2 年 3 月	
③ 県高等学校長会副会長	令和元年 4 月～令和 2 年 3 月	
④ 県商業高等学校協会副会長	平成 29 年 4 月～令和 2 年 3 月	
⑤ 和歌山県高体連監事・空手道部長	平成 29 年 4 月～令和 2 年 3 月	
⑥ 平成 30 年度第 38 回全国高等学校空手道選抜大会 大会委員長	平成 31 年 3 月 25 日～27 日	

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				特になし
(学術論文)				特になし
(その他) 「学会発表」				特になし
「講演等」				特になし